

平成21年度総合問題（第一部商経学科）解答例

- 1** (150点：問1＝15点， 問2＝15点， 問3＝30点 10点×3
問4＝20点， 問5＝30点， 問6＝40点)

問1

【採点のポイント】

- ・ ①正社員と非正社員の間の所得格差，②正社員とパートの間の所得格差，③非正社員とパートの間の所得格差の三つの格差に言及したうえで，全体としての特徴を指摘できていること。

【解答例】

図1からは，22歳から60歳までの全ての年齢で正社員と非正社員の間に大きな所得格差が生じており，この格差が最も大きくなる40代から50代では3倍もの開きが出来ることが読み取れる。さらに，この所得格差は正社員とパートの間では6倍近くまで拡大している。また，非正社員とパートの間にも2倍以上の所得格差がある。このように，日本の所得格差は，正社員，非正社員，パートの三層の間の大きな格差となっている。(198字)

問2

【採点のポイント】

- ・ 資料1からジニ係数とは何かが正しく読み取れていること。
- ・ OECD加盟国の状況について正しく言及できていること。

【解答例】

ジニ係数は所得格差を表す指標である。この係数を用いて先進国の所得格差の現状を見てもみると，デンマークやスウェーデンなどの北欧諸国が格差の少ない平等な社会であるのに対して，日本はすでに格差が大きくなっており，アメリカのような格差が大きく不平等な国に近づいていることが分かる。(135字)

問3

【採点のポイント】

- ・ 問題文の意味を正しく日本語に置き換えられていること。

【解答例】

- (ア)「どの国でもどの時代でも，ある程度の所得格差は常に存在する。しかし，格差は必ずしも悪いことではない。」
- (イ)「重要なことは，格差に注目するばかりではなく，互いに学びあい，そして，各自のベストを引き出すための機会として社会で繰り広げられている競争をとらえることである。」
- (ウ)「いわゆる『勝ち組と負け組』が固定化するようであってはならない。一度，競争に

破れた者が勝者として返り咲くことができるような機会が彼等に与えられるべきである。」

問4

【採点のポイント】

- ・ 機会の平等が与えられている場合の結果責任，競争によるパイの拡大などについて自分の言葉で説明し，格差の拡大がやむをえないとする論理を説明できていること。

【解答例】

経済のグローバル化と情報技術革命により，誰でも意思と能力があれば競争に参加できる道が開かれた。その結果として，チャンスを生かした人と，生かせなかった人の間に生じたのが現在の所得格差であり，この格差は個々人の責任に帰すべきものである。また，速く走れる人に能力どおり走ってもらうことで，社会全体の利益も高まるから，格差はそのために必要なものとも言える。このような意味で，所得格差は止むを得ないものである。

(200字)

問5

【採点のポイント】

- ・ パイの成長だけを考え，分配の公正を考えないと，格差が拡大するばかりであることを論理的に，自分の言葉で分かりやすく説明できていること。

【解答例】

速く走れる人に能力どおり走れる仕組みを作って社会全体のパイを拡大しても，拡大した分を速く走れない人に分配する仕組みがなければ，拡大した分を速く走れる人が総取りするウィナー・テイク・オール状態になってしまう。これでは，経済成長は所得格差をますます拡大してしまう。資料3の考え方は，パイの成長だけを考え，分配の公正を考えない，あるいは軽視している点に問題があると資料4の筆者は考えている。(192字)

問6

【採点のポイント】

- ・ 問1～問5の解答を踏まえていること。
- ・ 自分の考えを説得力をもって展開できていること。

2

(50点： 問1＝20点， 問2＝30点)

問1

【採点のポイント】

- ・ 「できないこと」「遅いこと」などが，他者を否定することにつながるという内容が記述されていること。
- ・ 文中の言葉をなるべく使用していること。

【解答例】

「できること」の反対にある「できないこと」「遅いこと」「助けられること」は「わるいこと」「よくないこと」とみなすような価値観が、子どもたちに広まる。そして、そうした視点から他者を見るようになり「悔り」や「差別」「いじめ」の対象とするようになる。また自分の「できない」「遅い」ことに対して自己を否定する気持ちが強くなる。(159字)

問2

【採点のポイント】

- ・ 文章の論旨が一貫していること。
- ・ 文意が明瞭であること。

【解答例】

「おとな」たちによって構成されている現代の社会は、経済活動を中心とする社会であり、そこでは、効率や能率が求められている。「ゆっくり」考えて「ゆたかなもの」を生み出すという考えも存在するが、こうした考えは近年の競争主義・成果主義によってだんだん排除されて行く傾向にある。日常的に競争にさらされ社会的弱者に目が届かなくなりがちなおとなは、子どもたちの「できないこと」「遅いこと」にゆっくりとつきあうことができない。(207字)